

学習内容報告書 フォーマット

学校名	能登町立松波小学校
授業者	河元 友子

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

生き物のくらしと環境～海の中の食物連鎖～

1-2. 学年

6年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

理科

1-4. 単元の概要

「動物のからだのはたらき」や「植物のからだのはたらき」などの既習事項と関連付けながら、生き物どうしの「食べる」「食べられる」という関わりや、生き物と空気や水などの環境との関わりを総合的にとらえる。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

- ・自然の中での生物どうしの食べ物を通じた関わりについてや、生物は空気や水を通して周囲の環境と関わって生きていることについて理解する。
- ・海の中のプランクトンを観察することで実感を伴った理解ができるようにする。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

生物と環境との関わりについての事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活などに生かそうとする態度を育む。

1-7. 単元の展開（全6時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	<p>絵や写真を見て、生物は他の生物や周りの環境とどのように関わっているか考え、生物と環境との関わりについて問題を見いだす。</p> <p>人の食べ物の元は何かを調べ、まとめる。(調査①)</p>	<p>・生物は、他の生物や周りの環境とどのように関わっているかについて問題を見だし、食べ物を通した生物のかかわりについて調べ、表現している。【思判表】</p>
2 ・ 3	<p>ダンゴムシが落ち葉を食べる様子や水中の小さな生物を観察するなどして、自然の中での動物の食べ物を調べる。(観察①)</p> <p>観察結果を基に、生物の食べ物を通した関わりについて考え、まとめる。</p>	<p>・生物の間には、食う食われるという関係があることを理解している。【知技】</p> <p>・観察結果を基に、自然の中での生物どうしの食べ物を通した関わりについて考え、表現している。【思判表】</p>
4	<p>空気中に酸素を出している物は何かに問題を見いだす。</p> <p>植物が酸素を出しているかを調べ、まとめる。(実験①)</p>	<p>・空気中に酸素を出している物は何かについて酸素や二酸化炭素の変化を酸素センサーや気体検知管を正しく使って調べ、適切に記録している。【知技】</p>
5	<p>生物と水との関わりについて考え、まとめる。</p> <p>地球をめぐる水と生物との関わりについて考える。</p> <p>生物と食べ物、空気、水との関わりについて、学んだことをまとめる。</p>	<p>・生物は、空気や水を通して周囲の環境と関わって生きていることを理解している。【知技】</p> <p>・生物と環境についての学習を振り返り、表現しようとしている。【態】</p>
6	<p>海の中の小さな生物を観察することで、海の中の生物の食べ物を通した関りについて考える(観察③)</p>	<p>外部連絡：能登里海教育研究所 浦田慎さん 使用教材：顕微鏡，プランクトン等顕微鏡画像をモニターに映し出す装置</p> <p>・生物の間には、食う食われるという関係があることを理解している。【知技】</p> <p>・ダンゴムシが落ち葉を食べる様子や水中の小さな生物について、粘り強く他者と関わりながらまとめようとしている。【態】</p>

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

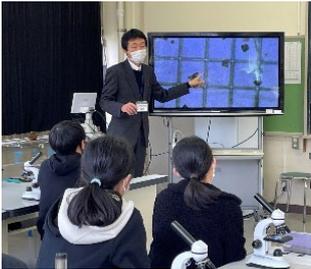
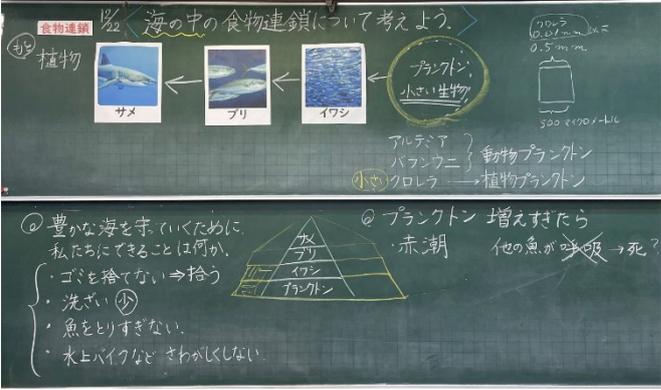
単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

生物の間には、食う食われるという関係があることを理解する。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1. 課題をつかむ。 <陸上の生物は食べ物を通してどのように関わっていたかな。></p> <p>【課題】《海の中の食物連鎖について考えよう。》</p> <p>2. 予想する。サメ←ブリ←イワシ←水中の小さな生き物</p> <p>3. 水中の小さな生き物について知る。観察する。 ※その大きさや色、形の違いに驚いていた。</p>   <p>4. 深める。 <海にプランクトンが増えすぎたらどうなるか。> <豊かな海を守っていくために、私たちができることは何かな。></p> <p>5. まとめる。</p>	<p>・児童、教員はマスクを着用。授業前に必ず手洗い、手指消毒を行う。使用場所の換気を徹底する。</p> <p>・顕微鏡を一人 1 台操作する。</p> <p>・海の中のプランクトンを 3 種類用意する。</p> <p>・プランクトンの大きさや色、形の違いを全体でも確認できるように大型 TV に示す。</p>  <p>生物の間には、食う食われるという関係があることを理解している。【知技】</p>

⑤ 海の中の生物も食物連鎖の関係でつながっている。もとをたどると植物にたどりつく。

ふり返り。

ダンゴムシが落ち葉を食べる様子や水中の小さな生物について、粘り強く他者と関わりながらまとめようとしている。【態】

3. 今回の活動の自己評価

- ・実物のプランクトンを見ることで、児童の興味関心が大変高まった。
- ・児童は海の中の生き物のバランス、海の環境の大切さを実感できた。

4. 今後の課題

・「生き物のくらしと環境」の単元は1学期末である。海の中のプランクトンの観察は諸事情により12月になってしまったので、児童の意識の流れが途切れないように工夫が必要であった。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

・今回提供してもらったプランクトンは、松波中学校の生徒が育てたものもあり、小中連携した取組となった。

※実施した単元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS明朝，10.5ポイント / マージン：上下端20mm，左右端16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。